

日本の自然、食糧はほんものか

高岡市農協 生活指導員 浦上 節子

高岡市農協では、市民の皆さんに農業や食糧、農協を理解してもらおうと、昭和53年から年2回(4月と9月)『くらしとみどり』を発行しています。

昭和62年の4月発行のNo16までは、自治会長を通じて班の回覧としていましたが、10月に発行したNo17から高岡市内全戸分の4万枚を印刷。自治会長を通じて配布しました。

くらしとみどりの編集にあたって注意していること(これは何にでも言えることですが)は、1人でも多くの方に見てもらおうこと。そのためには、見やすく、わかりやすく、読んで見たいなあという内容にすることです。なかなかむづかしいのですが努力して行かねば………と思っています。

今回発行のメインテーマは、外国人から見た日本・富山・高岡について。日本人に日本語で質問して文章にまとめるのでさ大変なのに、ことばの通じない外国人にインタビューしたのですから大変でした。通訳を外国語学院の先生にお願いして何とかまとめることができました。今回は、アメリカ、オーストラリア、フランス、中国の方々に自然や食糧についてインタビューしました。

取材を通じて感じたことは、日本は物質的には大変豊かな国だし、自然にも大変恵まれているとのこと。水もおいしいし、生水がそのままでも飲めるのはミネラルウォーターを買っている外国の方から見るとおどろきとのこと。ましてや井戸水が自噴しているという話をするともうびっくりでした。高岡市農協

青年部で井戸水についての調査結果をお話しました。環境保全是大切なもので、農協でも自然を守る運動をしているという話をしましたら感動しておられました。

米は、4人とも案外よく食べておられ、米のよさが理解されておりました。それもチャーハンとか炊き込みごはんというのではなく、白いたきたてのごはんでした。日本人の主食の感じで食べておられ、外国ではお米もベジタブルの一つという感じでなく、ふりかけやうめ干して食べるということではびっくりしました。アメリカ人のビギンズさんは、「アメリカでは2食もごはんを食べる家がふえつつある。」と話して下さり認識不足を反省しました。

野菜については、中国では市場でたくさんの野菜が泥つきで売られ、匂いのものがたくさん出廻っているとのこと。日本ではいつでもスーパーへ行くとレタス、キュウリ、トマト etc、それぞれの野菜はいつが旬なのかわからないものが多くならべられています。

オーストラリアでもフランスでも家庭菜園をしている家庭が多くあります。家族に新鮮で安全な野菜を食べさせようと、少しのスペースでも作付しているとのこと。これは農家ばかりでなく、都会でも多くあると聞き、日本のように庭木を植え込むスペースがあっても畑はしないのとはずいぶん違うと思います。

自分で土を耕やし、野菜を育て収穫するという自然の恵みを膚で感じるができるのには野菜や花づくりが一番です。作ってみてはじめて食べ物の尊さもわかると思います。

家庭菜園の大切さをもっと強く訴えていく必要性を感じました。

また、日本人には何でも粗末にする所があるとされていますが、やはりムダが多く見られると言うことでした。パーティーなどの時の残りのごちそうなどまだまだ食べられるのにだれも持ち帰らないし、多くのごちそうをならべすぎているのではないかと指摘されました。ドギーパックというパックが用意

されていて、おみやげに持ち帰ったりすることや、出されたものはもったいないからしっかり食べることをみんなで心がけたいと思いました。

世界的な食糧不足が言われて久しいのですが、私達も真の豊かさは何かを考えて行きたいと“くらしとみどり”の取材を通じて考えさせられました。

くらしとみどり NO.17 農協広報 コミュニティ版 編集・発行 高岡市農業協同組合 高岡市あわら町1-9-1 TEL: 076862-3333 昭和62年10月1日

LOVELY TAKAOKA
高岡のお米・水・空気・野菜
どれもいいんですね

高岡外国語学校の筑館の皆さんに高岡のくらしについてインタビューしました。
通訳の原田さつき君が取材した。

日本食に注目
ルイス・パーカーさん
（オーストラリア、シドニー在住）

高岡は大変美しい町
アン・ビギンズさん
（アメリカ、アークレイブ在住）

食糧は100パーセント自給
ミレーシュ・ジョリーさん
（フランス、ワレヴィル在住）

日本人はよく働く
村田世志夫さん
（中国、瀋陽在住）

■米・水・空気は国内自給の大切な財産。
外国の打撃も、安全な産物・素晴らしい自然を守る必要を訴えておられたい。
自然に恵まれた高岡、この豊かな環境をいつまでも残したいものです。